

# ワシントンマニュアル 第13版

The Washington Manual™ of Medical Therapeutics, 34th Edition

## 支持され続ける理由がある。

新刊

小手先ではなく 体幹を鍛える

“世界標準”の治療マニュアル **最新版**

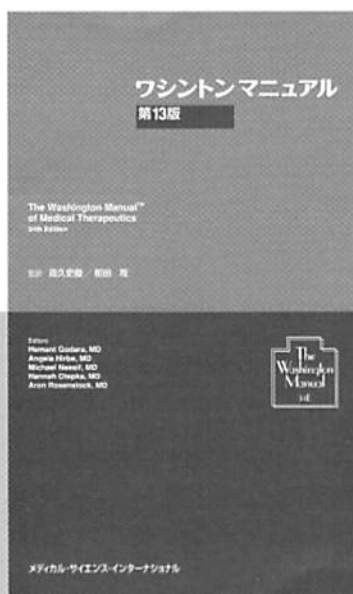
指導医

オーベンが読み続け、

研修医

レジデントに読み継がれる

これぞ“マニュアル”



監訳

高久史磨

日本医学会長/  
自治医科大学名誉教授

和田 攻

東京大学名誉教授

- A5変 1192頁 図42
- ISBN978-4-89592-800-7
- 定価：本体8,400円+税



絶賛発売中

## ハリソン内科学 第4版

Harrison's Principles of Internal Medicine, 18th Edition

日本語版監修: 福井次矢・黒川 清

● 定価: 本体29,800円+税



## ハリソン内科学問題集 日本語版第4版完全準拠

Harrison's Principles of Internal Medicine Self-Assessment and Board Review, 18th Edition

日本語版監修: 福井 次矢・黒川 清

● 定価: 本体5,555円+税

MESI メディカル・サイエンス・インターナショナル

113-0033  
東京都文京区本郷1-28-36

TEL 03-5804-6051  
FAX 03-5804-6055

http://www.medsj.co.jp  
E-mail info@medsj.co.jp

**連載** [ネグレクトが疑われる事例の考察で臨床力をみかく]

全6回

## 気になる親子関係をみるコツ①

# 「行動」ではなく「甘え」という情動に焦点を当てる

小林隆児 (児童精神科医/西南学院大学人間科学部社会福祉学科教授)

## 1. 連載を始めるにあたって

編集部から頂いた本連載のテーマは「ネグレクトの子ども—専門医のカルテから」であった。子ども虐待の問題が連日のようにメディアを通して流れていることからわかるように、子どもを取り巻く養育環境は深刻化の一途をたどっている。子ども虐待を少しでも早期に発見し、適切な介入をすることが今切実に求められている。本誌の主要な読者の一部である内科医や小児科医も子ども虐待を念頭に置くことは口頃の診療をする上で必須な条件となりつつあるということなのであろう。

## 2. ネグレクトの今日的な概念

以前、「ネグレクト (neglect)」は「養育怠慢」あるいは「養育放棄」などと訳されていたが、今では「ネグレクト」としてそのまま用いられることが多い。「子ども虐待対応の手引き」(平成25年8月厚生労働省の改正通知)<sup>1)</sup>によれば、食事などの身の世話や健康や安全への配慮を怠ることに加え、子どもにとって必要な情緒的欲求に答えていないなどの愛情遮断も含まれるようになってきている。

医療現場で遭遇するネグレクトとして問題となる事例は、「食事などの身の世話や健康や安全への配慮を怠ること」よりも「子どもにとって必要な情緒的欲求に答えていないなどの愛情遮断」を推測させるもののほうが実際には多いのではないかと。養育怠慢や養育放棄であれば、診療の場で遭遇する前に何らかの手だてが打たれることが多いとも思われるからである。今や経済的には困窮していないにもかかわらず、親の意向が強く反映し、子どもの思いがないがしろにされていると思われる事例に出会うことはきわめて多い。筆者がこれまでに経験した虐待関連事例はほとんどそのような類いのものである。

## 3. 養育者に対する情緒的欲求が満たされない子どもたち

ただ、精神科の一臨床医の立場からすると、ネグレクトか否かを判断することが重要な

のではなく、子どもの様々な欲求に対して養育者が応えようとしなないのはなぜか、その背景要因をも含め丁寧にみながら理解を深めていくことが大切になる。養育者自身にもそれなりの背景があるものなのだ。そこに焦点を当てることによって初めて母子双方の治療につながっていくからである。

中でも特に問題となるのは、子どものこころの発達において最も大切な子どもの欲求である「甘え」に対して、いたく鈍感な養育者が少なくないことである。昨今「アタッチメント」形成の重要性が指摘されているが、そこで大切なのが「甘え」という情緒的なつながりである。それによって子どもと養育者との間に基本的信頼関係が生まれるからである。では、情緒的なつながりに問題を抱えている事例は実際どのようにして発見することができるのであろうか。

ここで大切なことは、子どもだけを見るのではなく、親子の「関係」に照準を合わせて観察することである。「甘え」をめぐる親子の間でどのような関わり合いが繰り返されているかを丁寧にみていくことである。そこで本稿では、臨床医が日常診療において乳幼児とその養育者の間で情緒的な触れ合いがどこかしっかりこないという気がかりな事例に出くわしたとき、どのような点を考慮して診療することが求められるかを述べてみたいと思ひ、標記のテーマとした次第である。

## 4. これまでの筆者の臨床経験

### —母子ユニットという新しい臨床研究の場

ちなみに筆者は、児童精神科医としておよそ40年間臨床に従事しながら、乳幼児から成人まで幅広く診療してきたが、当初の筆者の関心は自閉症をはじめとする発達障害であった。その関心が高じて乳幼児期早期の段階で母子関係にどのような問題が生じて、後に発達障害とされる病態へと発展していくのかを直接観察して確かめたいと願うようになった。そこで、20年前に当時勤務していた大学に母子ユニット(mother-infant unit:MIU)を創設し、乳幼児期の母子関係を詳細に観察する環境を持つことができた。その後、14年間にわたって臨床実践を蓄積し、最近やっとその成果をまとめることができた<sup>2)3)</sup>。本連載で取り上げるのは、そこで得られた成果の一部である。

## 5. 母子関係の観察—新奇場面法(SSP)という枠組み

本稿でいくつかの母子事例を取り上げ、その関係の特徴を詳細に述べることになるが、その前に読者に理解して頂かなくてはならないのは、筆者がMIUで母子関係を観察する際に用いた枠組みである。それは、アタッチメント研究が非常に盛んであった時期に世界中で用いられていた、新奇場面法(strange situation procedure:SSP)と言われるもので

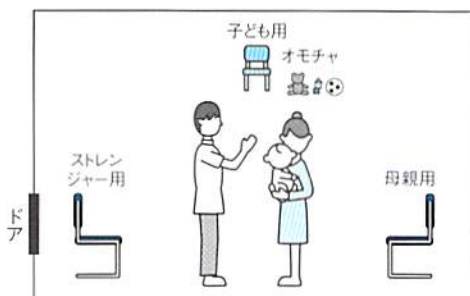
ある。子どもを母親と人工的に分離することによって引き起こされる不安によって子どもが再会時に母親に対していかなる行動を取るかを観察することによって、アタッチメント行動の特徴を判定するというものである(図1)<sup>1)</sup>。

アタッチメント研究においては、喚起された不安によって子どもが母親を求めてどのようなアタッチメント行動を取るかを観察し、その特徴からいくつかのパターンにわかれることが明らかとなっている。多くの場合、養育者と分離することによって不安が喚起され、母親との再会で接近して抱かれることによってしだいに安心して穏やかになっていく。安定型と言われるものである。しかし、子ども虐待の事例では、養育者と一緒にいてもいなくても強い葛藤と困惑を示して養育者に接近することができず、さらには奇妙な常同行動などを示すという、独特なアタッチメント行動を取る。不安定型の中でも無秩序型と称されるものである。

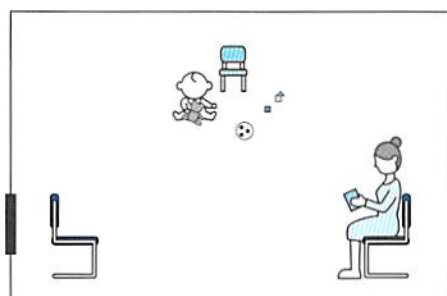
## 6. 「行動」ではなく「情動」に焦点を当てた母子関係の観察

しかし、筆者はSSPを用いつつも子どもが母親に向けるアタッチメント「行動」に着目することをせず、「甘え」という情動(こころ)の動きに焦点を当てて母子「関係」を観察した。それによって乳幼児期早期の子どもたちが母親に対して実に繊細なこころの動きを示すことが明らかとなった。日本人に馴染み深い「甘え」という情動の動きに焦点を当てることによって得られた発見である。次回からMIUで実際に観察した事例を取り上げながら具体的に解説していくことにしよう。

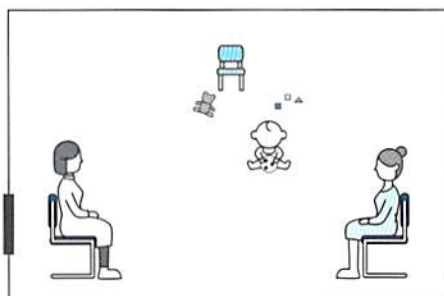
- 文献**
- 1) 日本子ども家庭総合研究所, 編: 子ども虐待対応の手引き—平成25年8月厚生労働省の改正通知—, 有斐閣, 2014.
  - 2) 小林隆児: 「関係」からみる乳幼児期の自閉症スペクトラム, ミネルヴァ書房, 2014.
  - 3) 小林隆児: 甘えたくても甘えられない, 河出書房新社, 2014.
  - 4) 繁多 進: 愛着の発達, 大日本図書, 1987, p79.



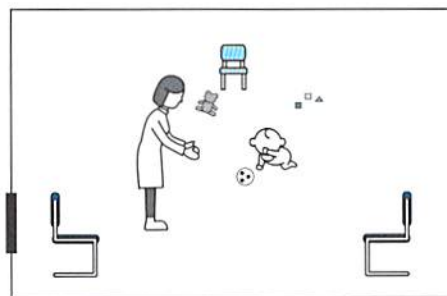
①実験者が母子を室内に案内、母親は子どもを抱いて入室。実験者は母親に子どもを下ろす位置を指示して退室(30秒)



②母親は椅子に座り、子どもはおもちゃで遊んでいる(3分)



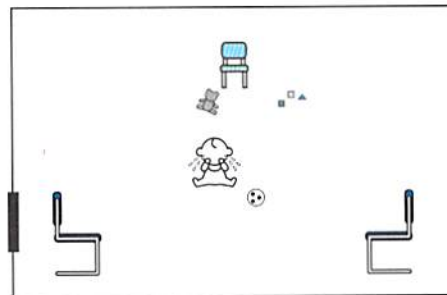
③ストレンジャーが入室。母親とストレンジャーはそれぞれ椅子に座る(3分)



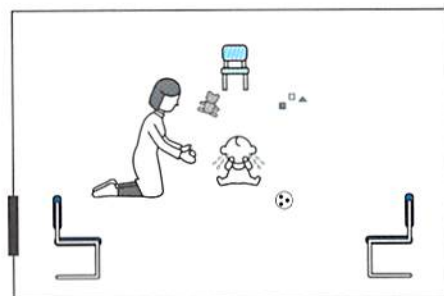
④1回目の母子分離。母親は退室。ストレンジャーは遊んでいる子どもにやや近づき、働きかける(3分)



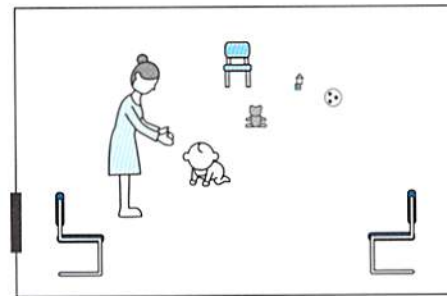
⑤1回目の母子再会。母親が入室。ストレンジャーは退室(3分)



⑥2回目の母子分離。母親も退室。子どもは1人残される(3分)



⑦ストレンジャーが入室。子どもを慰める(3分)



⑧2回目の母子再会。母親が入室しストレンジャーは退室(3分)

図1 新奇場面法 (SSP) の手順

ストレンジャー (stranger) とは見知らぬ人の意で、母子双方にとって初めての人を指す。筆者のスタッフである女性が担当している (文献4より作成)

最新刊・好評書のご案内

## 診断推論 Step by Step

症例提示の6ステップで鑑別診断を絞り込む

編著=酒見英太(昭和会京都医学教育センター所長)  
内科系ジェネラリストのための思考トレーニングに最適!  
6つのステップで鑑別診断を絞り込み、ジェネラリストに  
要求される思考過程を診断仮説を盛り込みながら詳細  
かつ丁寧に解説しました。

●B5判 120頁  
定価(本体価格3,200円+税)  
[ISBN978-4-88002-754-8]



## 総合診療医に挑戦! 画像deクイズ

編集=森田浩之(岐阜大学総合病態内科学 教授)  
「見る」経験値up→診断力が活性化!  
プライマリ・ケアでまれにしか遭遇しない、見て知っておく  
とすぐ診断に直結する画像満載。所見ポイントや疾患解説  
も充実。研修医からベテラン向けまで難度別、5択52問。

●B5判 カラー 128頁  
定価(本体価格3,300円+税)  
[ISBN978-4-88002-750-0]



## S-PA 標準言語性対連合学習検査

編集=日本高次脳機能障害学会  
待望の「標準化された言語性対連合学習  
検査」がついに完成! 記憶障害が疑わ  
れる方のスクリーニングツールとして、幅  
広く活用いただけます。

●スタートキット 定価(本体価格4,500円+税)  
●別売用紙セット 定価(本体価格4,000円+税)



## 注意と意欲の神経機構

編=日本高次脳機能障害学会 教育・研修委員会  
「注意」と「意欲」をどのように捉え、そしてその障  
害にどうアプローチしていけばよいのか。臨床に  
役立つような重要な視点を網羅しながら、キーワード  
解説付きでわかりやすくまとめました。

●A5判 280頁  
定価(本体価格4,200円+税)  
[ISBN978-4-88002-850-7]



## プリセプターナースのリスクマネジメント・BOOK

医療事故シミュレーションでスキルアップ!

編著=日山 亨・倉本富美  
実際に医療事故が起こった場合、看護者は何をど  
のようにすればよいのかという視点から医療事故  
シミュレーションを盛り込んでよりリアルに解説。

●B5判 82頁  
定価(本体価格2,200円+税)  
[ISBN978-4-88002-751-7]



## 日常診療に必要な認知症症候学

編著=池田 学(熊本大学神経精神医学分野 教授)  
生活上の問題、その背景の異常を理解し、  
実際の治療、生活支援につなげるための  
ポイントを丁寧に解説しました。

●B5判 196頁  
定価(本体価格5,000円+税)  
[ISBN978-4-88002-743-2]



いま、臨床が面白い!

## Modern Physician

内科系総合雑誌 モダンフィジシャン

35巻 3号 **臨床に役立つ結核治療の知識**  
企画・編集:重藤 えり子 定価(本体価格2,500円+税)

2号 **肥満症診療最前線**  
企画・編集:宮崎 滋 定価(本体価格2,500円+税)

1号 **どう診る、どうケアする糖尿病の合併症**  
企画・編集:稲垣 暢也 定価(本体価格2,500円+税)

34巻 12号 **高血圧治療の併用療法 23のクリニカルクエスト**  
企画・編集:桑島 義 定価(本体価格2,500円+税)

11号 **女性のアンチエイジング**  
企画・編集:太田 博明 定価(本体価格2,500円+税)

10号 **転倒予防—これまでとこれから—**  
企画・編集:武藤 芳照 定価(本体価格2,500円+税)

9号 **臨床医のための血管炎の知識 up-to-date**  
企画・編集:尾崎 承一 定価(本体価格2,500円+税)

8号 **関節リウマチの診療 身体機能障害をきたさないためのアプローチ**  
企画・編集:三森 経世 定価(本体価格2,500円+税)

7号 **脳卒中リハビリテーション—新たなる治療戦略**  
企画・編集:江藤 文夫 定価(本体価格2,500円+税)

6号 **睡眠薬・抗不安薬の適正使用を考える**  
企画・編集:山本 賢司 定価(本体価格2,500円+税)

5号 特大号 **消化器内視鏡治療の最前線**  
企画・編集:坂本 長逸 定価(本体価格5,500円+税)

4号 **全身病としての足病変 ~プライマリケア医にできること~**  
企画・編集:小林 修三 定価(本体価格2,500円+税)

3号 **腰痛診療最前線**  
企画・編集:紺野 慎一 定価(本体価格2,500円+税)

2号 **知っておきたい急性中毒の知識**  
企画・編集:上條 吉人 定価(本体価格2,500円+税)

1号 **痛みの臨床 心身医療からのアプローチ**  
企画・編集:久保 千春 定価(本体価格2,500円+税)

33巻 12号 **高齢者の肺炎—NHCAPを中心に—**  
企画・編集:渡辺 彰 定価(本体価格2,500円+税)

いつからでもお得な年間予約購読をお勧めします!

年間予約購読料 **33,000円** 税込・送料サービス

月刊 毎月1日発売 B5判 2色刷通常号11冊+特大号1冊



株式会社 新興医学出版社

〒113-0033 東京都文京区本郷6-26-8  
TEL. 03-3816-2853 FAX. 03-3816-2895

http://www.shinkoh-igaku.jp  
e-mail: info@shinkoh-igaku.jp